



▼ オープニング

いよいよ今年もシーズンが始まりました。

数日前まではこの時期には珍しい記録的な暑さが続いたものの当日は小雨降る中10艇が今年初のレースを繰り広げました。

前日までは外帆のオープニングレースでは初の14艇の出走が予定されていたが、当日蓋を開ければ3艇が出走取り消し、残る1艇はポンツーンでトラブリ出走断念、結果10艇によるサウスウインドお披露目レースであった。

レース結果は裏面に掲載

▼ DHARMA旋風

オープニングに続き函館湾OPにおいても優勝と眠れるダルマが函館ヨット界に旋風を巻き起こしている。

去年は、レースに出ても手も足も出ずまさに‘DARUMA’状態だったのは今年への伏線だったのでは？今年も2レースが終わって2連勝まだまだ主要なレースは残っている。

‘DHARMA’の今年の活躍が楽しみである。

レース結果は裏面に掲載

▼ いま外帆は輝いている

今年も上下架に伴う艇の整備の期間、上架地に通って見たら、いま外帆はいまだかつて無く輝いていることを発見した。

仕事帰りに寄ってみると、毎日といってよいほどマイウェイは船底の剥離作業をしていた。今年南に下る予定のため念入りに整備していた。多分作業量としては一番多かったかもしれない。

コンコルディアIIは連休を利用してオーナー自ら乗り込んで横浜から新艇を回航されてきた。函館に到着したその日にオーナーの案内で乗船することができた。大事な宝物を手にした少年のようなオーナーの日焼けした顔が輝いていた。これで医師のストレスもぶっ飛んで毎週日曜はポンツーンに通うことになりそうだ。

新入会の貴帆は、まだ艇を持って来ていないものの、ちょこちょこ上架地に顔を出してくれた。多分明年は皆と同じようにペンキまみれになって和気あいあいとやっていると思う。

チャンピオン改めサウスウインドのオーナーは新艇のチューニングもせず、黙々とクラブハウスのドアを直していた。頭が下がる。

念願のファーラーを取り付けたカナイは嬉々としてテストセーリングに出て行った。

ベルクレールの新オーナーも連休中艇の整備に励んでいた。長年の夢の舟を手に入れ、今度は一夜舟に泊まってみるという寝袋を積み込んでいた。

ペガサスのオーナーは、新しく取り付けたバウのステップを足場の上で腕組みしながらじっと眺め悦にいらした。

クロコではお姉さんたちが大活躍、ぴかぴかにハルを仕上げている。

眺めていて共通するのは、みんな大きな夢を持った少年少女の顔をしていることだ。北海道（たぶん東北も）のどこにこんな輝いて艇を整備しているところがあるだろう。熟年が頑張れば、必ず若者はついてくる

という予感がする。

こんな輝いている南北海道外洋帆走協会をみんなで大切にしていきたいと思う。家人に「子供みたいだ」言われたら「俺は子供だ」と言い返してやろう。

b y 増田副理事長

アンカーライト

第20話 港放浪記「松前港」

松前に行くにはあの白神岬を越さなければならない。

函館にいるヨットマンにとって、やはり津軽海峡、汐首岬、白神岬が3大難所ではないだろうか。

なかでも白神岬はその潮流のため拙にとっては一番身構える場所でもある。その昔「小島レース」では若気の至り、怖いもの知らずで仲間内で何度か通過しているがシングルで通ると一層緊張するのはそのときのトラウマか。潮流が速いため岩礁のある岸ぎりぎりまで近付いて潮の影響の少ないところを通らないと岬を越せないからだ。それでもオンザロックが怖いからできるだけ沖を通るようにするが、周りは岩礁だらけのところを潮波にもまれて通るのはいい気はしない。

こんな苦勞をしてたどり着く港が松前港だ。松前港は特殊避難港でありヨットは歓迎されるため気持ちよく入港できる。ヨットの着ける場所は一番奥のひとつ手前で電気も水道も使えて1週間いても千円足らずの使用料ですむのだ。かつて、北海道ヨットクラブの恒例クルーズで全国から数十艇が集まり盛り上がったのは記憶に新しい。

停泊して少しするとどこで見えていたのかスーパーカブに乗った「じっちゃん」がきちんと集金に来る。

2011、12、13年と続けておじゃました。11年は奥尻に行く予定で松前入港後強風が吹き続き結局5日間も一人でした。

港は町外れにあるため繁華街まで約1.6Kmありチャリが必要だ。かつての城下町であるので当然飲食店はあまた、おいらのおきにいは昔すごい美人のママがいる「さくら」。

「セーリング」の作曲者「ラビット」の店もあり、矢野旅館で風呂もOKだ。丘の上まで行けば松前城やおびただしい数の仏閣、松前藩屋敷の再現レプリカなど数日いてもあきることはない。戊辰戦争の足跡をたどるのもよい。

2012年の奥尻クルーズでは行きも帰りも数艇が集まりおおいに盛り上がった。

たまたま帰省していた町出身の「マーボー」A氏が町営温泉まで送迎してくれて感謝、戻ってからはBBQに舌鼓を打ちお盆の花火大会が彩りを添え、長く楽しい奥尻クルーズに終止符を打ったのであった。

白神岬を超えて行くに値する魅力十分の松前港であります。